

エゴルビジョンを作成 リサイクルビジョンを作成



北海道ブロック講習会(1月22日)

日本ELVリサイクル機構は、全国中小企業団体中央会の助成を受けた活路開拓事業の成果として「自動車解体業のモデルビジョン」を作成した。ELV機構は同事業の研究成果の普及を目的に、全国各ブロックで講習会を1月から3月にかけて開催する。

ELV機構 委員長(田義史)は昨年7月、外川健一(熊本大学教授)、姫野良治(藤田義史)、藤井コンサルタントグループ代表取締役(外部委員として迎え活路開拓調査委員会(外川健一)のポイント)とし、自動車解体業を取り巻く環境(②自動車解体業の実態調査結果③事業経営の工夫のポイント④組織力強化)を構成され、まず、1章と2章で実態を把握する内容。最も力点の置かれた第3章の「事業経営工夫のことを求めている。

客観的な把握が重要

報告書は、①最近の自動車解体業を取り巻く環境(②自動車解体業の実態調査結果③事業経営の工夫のポイント④組織力強化)を構成され、まず、1章と2章で実態を把握する内容。最も力点の置かれた第3章の「事業経営工夫のことを求めている。

各ブロックで講習会を開催



近畿ブロック講習会(1月29日)

ステップ1では、取り組みの第一歩として、まずは自社の実態を把握する。第4章では、こうした取り組みをさらに有効にするためには、情報の取

得やコミュニケーション等について提案している。

ステップ2では、自動

車マテリアルフロー分析

と財務分析を提案。取り

組みの第一歩として、ま

たうえで議論を深め、昨

年12月に報告書「自動車

解体業のモデルビジョン

(自動車リサイクルへの貢献とビジネスチャンスの追求)をとりまとめた。

委員会では、会員に対するアンケート調査を実施し、業の実態を把握し

たうえで議論を深め、昨

年12月に報告書「自動車

解体業のモデルビジョン

(自動車リサイクルへの貢献とビジネスチャンスの追求)をとりまとめた。

委員会では、会員に対

するアンケート調査を実

施し、業の実態を把握し

たうえで議論を深め、昨

年12月に報告書「自動車

解体業のモデルビジョン

(自動車リサイクルへの貢献とビジネスチャンスの追求)をとりまとめた。

